

2008年6月14日
日本同伴犬協会
支援救済委員会

6/14 犬のリラクゼーションマッサージ講習会

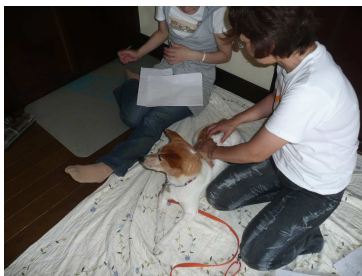
5月25日、雨天で延期した犬のリラクゼーションマッサージ講習会を、6月14日(土)午前10時からと、午後1時からの2回に分けて、JCDA事務局にて行いました。午前の部5頭、午後の部も5頭の合計10頭の参加がありました。そのほとんどは、JCDA犬のしつけ教室でスタンダードクラスに昇級しているワンちゃん達でした。

講師は矢野先生。ホリスティックな考え方のマッサージ方法の研究者です。人間で言う東洋医学的な考え方を入れた、競走馬のサラブレッドを始めとする馬に行うマッサージとして、アメリカで開発された方法だそうです。動物の体を本来あるべき姿に戻す為のマッサージ方法です。

犬のマッサージの最大の利点は、マッサージをすることでご自分のワンちゃんの体全体に触れられる事。触れることによって、ワンちゃんの心の声が聞こえるようになり、いろいろな病気や怪我など、普段見落としがちな問題点を見つけることが出来る事です。



(写真1) 熱心に説明して下さる講師の矢野先生



(写真2) リラクゼーションマッサージ講習会風景

特にマッサージの順番は決まっていません。犬が触らせてくれる所から順番に行います。犬が嫌がったら無理に行ってはいけません。骨と骨の間にはツボが集中しており、骨に沿って力を入れずに軽くなでるようにマッサージします。手足の指先や耳の先が温くなるまで続けます。筋肉は筋膜に覆われています。この筋膜を柔らかくすることで、筋肉のこわばりがほぐれてきます。筋膜が柔らかく持ち上がるまでマッサージが出来れば完璧です。マッサージの最中ワンちゃん達は、だんだん気持ちよくなり、うっとりして、目がショボショボしてきて、あくびをしたり、鼻水

やよだれが出てきたりする事もあります。また、なでる事により血流が良くなり、いらぬ毛まで抜けてくる。そのまま眠ってしまうワンちゃんも居ます。

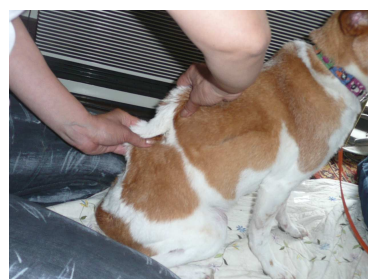
マッサージを終えたら、最後にクッキーストレッチで終了です。

全て終わったら、水をたっぷり飲ませ、おしっこをたっぷりさせる。体内にたまった老廃物が全て出てくれます。

注意点は、ワンちゃんがリラックス出来る環境で行い空腹時や、満腹時は避け、また激しい運動の前後もあまり良くないとの事。目安は食事を終えて、2時間後以降くらいが良い。てんかん発作のあ

るワンちゃん、手術後すぐのワンちゃん、癌と戦っているワンちゃん、症状を持ったワンちゃん達には別の方法があり、このマッサージ方法は注意が必要です。

大切なことは、「飼い主の皆さんの優しい愛情のある手で、ワンちゃん達の気持ちまでをほぐす事。とても大事な時間が過ごせる事」です。最近我が家の老犬が動かなくなってきた。すぐに足を引きずる。足が悪いから？ 運動のし過ぎ？ など、いろいろな症状、心配事があると思います。しかし、「自分の犬の変化は飼い主が一番理解しているはずです」。マッサージでご自分のワンちゃんの全身を触ってあげて、異変が無いかを確認する事がとても大切です。是非皆さんでリラクゼーションマッサージを試してみてください。



(写真 3) すっかりマッサージも終え、筋膜がたっぷり持ち上がる。

****矢野先生からのコメント****

講習会を通じて参加された方が、愛犬の心と身体の声を感じ取れる様に成って下されば嬉しいです。頑張り過ぎず、皆さんがお散歩の習慣と同じ様にマッサージが習慣になればと思って居ます。

以上

(文責: 支援救済委員会 丹治直昭)